ゆくかたちありさま、目もあてられぬこと多かり、いはんや河原などには、馬車のゆきちがふ道だにもなし、

〔玉海〕文治三年四月廿四日乙未、親經來仰、院白河○後宣云、近日天下有病患、又兒女有諺言、尤可有御祈事云々、申云、尤可然候、於諺言者未承及候、病患粗有其聞、御祈尤可候、但用途事難叶、先日可被付功國之由奏聞、此事未無御沙汰、依御定五六ヶ國相計雖催仰、敢無領狀之國、以別勅定可被仰下歟、抑近日可被召意見施德化之由有其聞、其事無私被行者、祈禱攘災不可過之者、

〔吾妻鏡二十八〕寛喜三年七月十六日、今月天下大飢饉、又二月以來、洛中城外疾疫流布、貴賤多以亡卒云々、

〔春日驗記八〕禪南院範雅僧都が養父大舍人入道といふものは、そのころ人に去られたる侍也、あるとし天下に疫病はやりて、家ごとにやみけるに、この入道が郎等男、ゆめに數多の武士この家にうちいらんとするに、先陣のともがら、うちをみいれて、かぶとをぬぎて拜していはく、此所には唯識論おはします、狼藉あるべからずとて、やがてみな退出しぬ、夢さめて後翌朝に、入道が家にきたりて此よしをかたる、そも〳〵唯識論とはなに物ぞやといふ、範雅おりふし在京して、かの家に同宿したりければ、このよしをつたへきゝて、くはしくその家をみるに、まろう人井の棚のおくより唯識論第九卷をもとめいだしてけり、此僧都つねに宿しければ、同朋どもなど取落けるにぞと、

〔融通念佛緣起畫詞下〕去正嘉のころ、疫癘おこりて人おほく病死にけり、其時武藏國與野郷に一人の名主あり、年來念佛信心の人にて、世間の疫癘をのがれんがために、家うちの老少をすゝめて、明日より別時念佛をはじむべきにて、番帳を書て道場におきけり、その夜の夢に異形の者ども如霞むらがりて行けるが、此家の門のうちへいらんとしけるを、あるじ出むかひて云、是は家